



とで、フリースランドが出てくるわけです。だから Nordfriesland というのは、その、今ドイツ領に入ってたデンマークの北のこのことを言うのだと思いますね。それで話がわかりやすくなりましたね。はい。

それで、die、はいこれは女性名詞のようですから、Steuer を受けていると考えますね。「その税金をフリースランド人たちは、払おうとしなかった」これはいいですね？簡単です。分析するほどのこともないと思います。Abel zog daraufhin zu Feld、はい、これもね、辞書をお引きになると、gegen ~ zu Feld ziehen で、「～さんに対して反対の運動をする」という訳が出ています。これでいいでしょうね。daraufhin ってどうやって訳したらいいと思う？

(生徒)「うーん。」

(笑)、意外と難しい。「そこで」っていうあたりでいいと思うんですね。darauf っていうのは結局「それについて」という意味ですから、「そのフリースランド人が納税を拒否したことを受けて」という気持ちなんですよ。「反対運動」…王様が反対運動を展開するって変な話で、なんか少し意識した方がいいんじゃないですかね。この Feld っていうのはね、つまり「戦場」なんですよ。話をね、要するに戦場に持っていったっていう話なの。力づくに…何だ？日本語で「力にものを言わせる」という感じ、そういう行動を取った。「これを受けてアーベルは、戦いを挑んだ」。私だったらね…そういう感じにしますけど。私だったら。

aber とつながる、「しかしながら」。「彼は死んじゃった」と。どこで死んだのか？ im Gefecht am Mildedamm っていう単語あるんですね。bei

Husembro、Husem…bro というのはこの地方の表現で、Brücke の意味なんだと。あのね、デンマーク語では今でも bro なんですよ。～ bro っていう町たくさんあるんですよ。だから「フーズム橋における」…「のところにある」です。この bei はね、漠然とした場所を表す bei。「ミルデダムという場所の戦場で死んでしまった」と。どうでしょうか？

(生徒)「はい。」

いいですか。

(生徒)「はい。」

第3パラグラフ 第1、2文

1362 überspülte die „Zweite Marcellusflut“ oder auch „Grote Mandränke“ genannt, weite Teile der Küste. Das Land wurde zerrissen, Inseln und der Ort Rungholt versanken, ganze Landstriche wurden dauerhaft unter Wasser gesetzt und Husum wurde über Nacht zur Hafenstadt.

はい。さあまた、これは dreizehn (hundert) …zweiundsechzig ですか、1362、ぽんと書いてありますが、ドイツ語ではね、こう日付のときに英語みたいに in が入らないですね。これどうして？入れちゃだめなの？

(生徒)「あ、どうしてなのでしょう？」

うん、これは対格の副詞的用法です。ドイツ語の、



ちゃんと格変化…「格の用法」っていうのを詳しい文法書で見ていただくと、「ドイツ語の4格、直接目的格の格は、名詞のままで時の副詞を作る」という用法なの。だから jeden Tag って4格でしょ？それから guten Tag も。あれは挨拶用語ですけど(笑)。だから時の副詞を作る4格なんです。れっきとした対格の名詞なんですね。

1362年に何があったんですか？ überspülte、spülen っていうのは日本語になってます。「シュプール」って、確か。…あれのシュプールとは違うのか？シュピール、シュプール、そうだよな？なんか船の通った後のこと「シュプール」って言うよね？

(生徒)「それとか、スキーのなんかこう…」

そうですね、そのシュプール^(編注24) ですよ。über-、それがこう、度を越しちゃっているということで、「あふれる」っていう意味が出ております、「あふれてしまった」。何があふれた？ die „Zweite Marcellus…「マル…」、何て言う？ドイツ人は「マルケルスフルート」と読むんじゃないでしょうか。oder auch „Grote Mandränke “ これはなんか固有名詞ですからそのまま行きましょう。ただマルケルスは、これはマルチェッロ、マルケルスっていうラテン語の男の名前で、その Flut は「流れ」という意味なんだろうね。なんかそういう固有名詞。ですからこれは、たぶん「川」なんじゃないですかね。と思いますが。

„Zweite Marcellusflut “、「あるいはグローテマンドレンケと呼ばれている」。ちょっと「川」という仮定で先行きます。「(その川) が」ですよ、「と呼

ばれている」…あ、ちょっと待って、genannt はもちろん、その Grote Mandränke が genannt に係っていますね。「が」ですね、これが主語です。weite Teile der Küste、これは「海岸」でしょうね、この場合ね。「岸辺の大半を」ですね、「大きな部分を」「広い部分を」、「越えてしまった」。ということは、「Zweite Marcellusflut “ というのは、なんか「潮」になるのかな？

(生徒)「うーん…そうですね。」

「潮」ですね、はい。潮のなんかそういう名前。こういうのはちょっと、注付けてほしいよね。(潮だと思われる) とカッコつけて付けておいてください。波がとにかく打ち寄せて、それで越えちゃったということを行っているわけですね。

ここちょっと念のために言っておくと、冒頭に時の副詞がありまして、die „Zweite 以下 genannt までが1格主語となります。で、主語と4格が並んでいるものですから、それ、はっきりわかりやすく区切りをわからせたいためにコンマ入れたんですね。

はい。Das Land 「この地は」、wurde zerrissen、zerrissen っていう元の形は何ですか？

(生徒)「zerreißen。」

はい。reißen ですね。この reißen っていう元々「引っかく」って意味なんですね。でね、なんとね、英語の write 「書く」っていう動詞と語源同じなの。知ってた？

(生徒)「知らなかったです。」

昔のドイツ人はブナの木に文字をこう、刻んだんで

(編注24) Spur (スキーの滑降によって雪面にできた跡) であり、spülen とは異なります。